

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取西部） 2月号

（1）和牛改良組合女性部が研修会開催

鳥取西部和牛改良組合女性部は1月29日、大山町羽田井の「尾古牧場」で研修会を開き、会員や行政、J A職員ら21人が参加した。

研修では県西部家畜保健衛生所の職員が、冬場の牛の飼育管理について寒さ対策や疫病予防対策などを説明。参加者は早期発見と早期治療の大切さを学んだ。研修後には、鳥取和牛と鳥取牛（ホルスタイン）を食べ比べながら意見交換を行い、交流を図った。



（2）タブレットを使った出向く体制の構築・強化および対応力強化

県域農業サポートセンターは、J A鳥取西部の担い手担当部署と連携して、担い手経営体のニーズに迅速かつ的確に応えるべく、出向く体制の構築・強化および組合員・利用者への対応力強化に向けた取り組みを行っている。

昨年12月には、営農企画課や各営農センターを中心とする営農関係部署に11台のタブレット端末を導入。タブレットを使って現場で起きている問題に迅速に対応することができるとともに、担当者がタブレットで情報を共有することも可能となった。また、個々の担い手農家から要望の多い経営診断分析に応えるため、サポートツール「経営診断分析システム」の実践段階への移行を目指す。



（3）小学校で給食交流会実施

全国学校給食週間(1/24~30)に合わせ、米子市内の小学校で安全安心な給食へ理解を深め地域特産の生産者と交流を図る給食交流会を実施した。交流会では生産者から農産物が大切に育てられる話などを聞き、給食の地元食材の良さを広く学ぶとともに美味しさを満喫した。

1月23日に明道小学校で実施した給食交流会では、日吉津村の大山ブロッコリー生産者と鳥取県住みます芸人「ほのまる」が4年生58人のもとを訪れ出前授業を行い、栽培から出荷までの流れを学んだ。大山ブロッコリーのキャラクター「リーブ」も参加したクイズ形式の出前授業は大いに盛り上がり、児童らは特産の大山ブロッコリーの魅力に触れていた。給食にはブロッコリー、白ネギ、ニンジン、サツマイモが入った「ふるさともりだくさんかき揚げ」が登場し、「おいしい」の声があがっていた。

